

待望の新たな高速道路が完成

11年3月からの7年9か月に及ぶ工事を無事に終え、後志自動車道・余市IC～小樽JCT間が12月8日(土)、ついに開通する。

同区間の開通で道央圏と北後志地方のアクセスがグンと向上。それに伴う救急搬送の時間短縮により、高度・先端医療を提供する第三次医療施設への60分圏内に、余市・仁木が新たに加わった。また津波などの自然災害時には、国道5号の代替路としての機能も期待されている。

地域住民の安全・安心な生活を支える新たな高速道路。完成までには、多くの人々の真摯な仕事があった。

一本の高速道路ができるまで

道路やトンネル、橋梁を設計し、それらの施工の現場管理を担ったのが、余市小樽工事区工事長の澤田信之さんと、小樽工事区工事長の田中昌幸さん。澤田さんは余市IC～小樽塩谷IC間、田中さんが小樽塩谷IC～小樽JCT間を担当した。

「今回のルートは山岳や丘陵が多く、全体の5割近くがトンネルや橋梁などの構造物です。その分、手間も時間もかかりましたね」と現場を振り返る澤田さん。地すべり対策などの突然起こった工事変更には、「次に

待っている舗装・施設工事の工程に迷惑をかけないよう、時間との闘いでした」と田中さん。

道路や構造物がある程度できたあと、仕上げの舗装をし、ガードレールや標識を設置していくのが、舗装工事班工事長・尾崎尚さんの仕事だ。その作業とはば並行して、施設工事班工事長の兼吉雅明さんが、料金所などの建物や道路・トンネルの照明など付帯物を備え付けていく。「しっかり仕上げるのはもちろん、開通後の点検や維持管理がしやすいよう、メンテナンス性にも気を配り

ました」と尾崎さん、兼吉さん。

完成までの見事なバトンリレー

それぞれが自分の仕事に責任を持ち、次の担当者へバトンを渡していく。まさにチームワークが重要で「いいチームじゃないと、いい仕事はできない」と全員が声をそろえて言う。着工から途方もない数のバトンをつないで完成した、23・3kmの新たな道。「今回の工事に参加できて本当に光栄です」と話す4人の笑顔に、自分の責任を全うした仕事人の誇りと喜びが垣間見えた。



ハイウェイを支える人々

Vol. 33

高速道路の裏側に潜入

18年12月、いよいよ余市IC～小樽JCT間が開通！工事に携わった小樽工事事務所の4人の仕事人に完成までの道のりと完成後の思いを聞いてみました。

東日本高速道路株式会社 北海道支社 小樽工事事務所



余市小樽工事区 工事長
澤田信之さん



小樽工事区 工事長
田中昌幸さん



舗装工事班 工事長
尾崎尚さん



施設工事班 工事長
兼吉雅明さん



1. 今回の開通で、札幌～余市間の所要時間が約19分短縮される
2. 多くの人が働く現場だけに、工事長同士の意思疎通はしっかりと
3. 全長681mの天神大橋(写真)など、12もの橋梁がかけられている
4. 小樽工事事務所安全協議会の標語を胸に現場へ